

文政四年辛巳六月阿蘭陀人持渡  
駱駝之圖 又トロメテリス

壯ハ歳牝七歳

身丈五尺九寸有餘尾長丈八尺  
駝駝國のこく類ハ羊ハ似て有る  
取たまで所ハ三の脚ありと  
居る時ハ脚を三ノ  
折る事ある  
肉峰ありと  
軟皮ありと  
木ノ葉  
食を食  
又好シ  
食を二度飽ま  
食をバ四五日食  
セ一日ハ百里の路を行  
歩する能く  
午五時能く  
ありて湯を  
有る出ても又  
人ハ脚を  
を

文政七年八月前八日大津

國安魚



五馬燈籠



駱駝の溺を製して飯死救命の灵薬とす  
知所ハ小兒ハ因テ指テ示ル時ハ痘瘡疹疹  
如ク一懸魔をさるめ事又雷駝駝駝  
駱駝の居る所ハ  
雷駝のちこそ  
肉峰ニあり  
大取用  
駱駝ハ脊上ハ肉  
峯ヲ取て封土の  
如ク多ク封駝  
名付と  
海上珍奇集曰  
駱駝ハ天竺の諸國  
を越テハントリ  
産と亞細亞國  
と三程あり  
座ハ背上の肉  
ニありアラビア  
中ハありと云リ  
國ハバタビア  
寫生ヤハ肉山  
天竺の内亞細  
博物家の一説  
異國も惠乃  
駱駝らこの御代



文政七年四月  
國安魚

山東庵京山

國安魚

7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90 1 2 3 4 5 6 7 8 9 100 1 2 3 4 5 6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6